

# 石狩湾新港開港 20 周年記念シンポジウムについて

石狩市 企画経済部 港湾・企業支援課

## 1. 開港 20 周年を迎えた石狩湾新港

石狩湾新港は、北海道の中心都市である札幌市から 15km、車で 30 分ほどの距離に位置しております。

石狩湾新港の開発は、北海道の日本海側の物流拠点として、日本海沿岸地域の発展に寄与するとともに、北方圏交流の拠点としての役割を積極的に担うことを期待され、スタートしました。

昭和 48 年から建設工事が始まり、入港第 1 船となる旧ソ連のブランカ・レーニア号を迎えたのは、約 10 年後の昭和 57 年のことです。

その後、入港船舶数や取扱貨物量も着実に増え、平成 6 年に、念願であった「税関・出入国管理・検疫」の指定を受け開港し、国際貿易港としての歩みを始めたのです。

国際貿易港に指定された後は、外貿定期コンテナ航路の開港などにより順調に発展を遂げ、外航船入港数 1 千隻の達成は、道内港湾で最短を記録しています。



写真 1 現在の石狩湾新港

## 2. 開港 20 周年記念シンポジウム

平成 26 年 6 月 10 日、石狩湾新港が国際貿易港として 20 周年を迎えたことを記念し、道央圏のエネルギー・物流の拠点、北東アジアをはじめとする国際物流の拠点として更なる飛躍を目指すため、「石狩湾新港地域の未来を拓く」をテーマに、シャトレゼガトーキングダムサッポロにおいてシンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、一般財団法人日本総合研究所理事長寺島実郎氏をお迎えし、「エネルギー地政学の現状と日本経済」についてご講演いただいたほか、北海道大学公共政策大学院特任教授小磯修二氏をコーディネーター、財務省函館税関長木村祐二氏、北海道ガス

株式会社代表取締役社長大槻博氏、石狩湾新港振興会会長山田藤夫氏、石狩市長田岡克介をパネリストとして「世界における石狩湾新港の役割」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

寺島氏の基調講演では、世界のエネルギー事情、日本海物流におけるロシアとの外交・経済交流の重要性など、開港記念にふさわしいグローバルな視点で石狩湾新港の今後の可能性が語られました。

また、パネルディスカッションでは、田岡市長から、石狩湾新港地域への LNG、LPG などのエネルギー施設の集積を踏まえて、洋上風力発電計画、超電導実証実験などのエネルギー基地としての将来像が語られました。他のパネリストからは、国際貿易における石狩湾新港のポテンシャルなどについて語られました。

シンポジウムには、460 人を超える方々が来場し、盛況の内に閉幕しました。



写真 2 開港 20 周年記念シンポジウム

## 3. 今後の更なる発展に向けて

石狩湾新港は、国際貿易港として 20 周年を迎えたばかりのまだまだ「若い」港です。

シンポジウムでも語られたとおり、石狩湾新港地域には LNG 基地などエネルギー関連施設が集積しております。また、データセンターの立地や超電導の実証実験など次世代に向けた新しい動きも出始めています。

石狩市としては、これらの港の特徴や優位性を生かし、石狩湾新港の末永い発展を目指して、努力を続けて参ります。